

神奈川支部情報<特別号>

「人のあかし」公演のお知らせ

発行日 2012年10月21日

<発行者> 撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部

ホームページ: <http://kanagawa.uketugu.org/>

<連絡先> 松山英司 TEL/FAX 046(871)4263

e-mail kan.mat.hid@tbc.t-com.ne.jp

郵便振込口座 00190-2-114578

「撫順での認罪」が、来月、演劇として上演されることになりました！

人のあかし ～ ある憲兵の記録から ～

いま、川崎市にある京浜協同劇団で秋の公演「人のあかし」にとり組んでいます。受け継ぐ会神奈川支部は全面的な協力を行なっています。

戦争で“鬼”になった人が、撫順戦犯管理所で“真人間”に戻った。そこには何があったのか。撫順戦犯管理所であった本当の事実をもっともっと知らなければならない。知らせなければならない。

本公演は、ひとりの劇団のリーダーの方が受け継ぐ会神奈川支部が主催する「神奈川証言集会」に参加されたことからはじまりました。中帰連の方の証言を聞き、撫順戦犯管理所であった事実を知り、「こんな大切なことがなぜ世間に知られていないのだろうか。もっともっと広く、この事実を知らせなければならない。ぜひとも劇団で公演したい」と考えられたのです。

準備を重ねて、脚本もととのったところで、勇躍このたび公演のはこびとなりました。脚本家の和田庸子さんも、「私は中帰連について知っていました、だが芝居にするには難しいだろうな、という印象をもっていました」と仰っています。脚本を書くにあたって、中帰連の方たちの体験の重みをどう受けとめるべきかを、悩み、考えたそうです。

昨年、3月11日に発生した大震災と原発事故以降の動きのなかで、「この社会がどうなってしまったのか。安全神話の崩壊が誰の目にも明らかにみえ、原発を推進する大きな力がじっさいに動きはじめている。社会のあり方がおかしくなってしまったのではないか。

そもそもその原因は、大震災と原発事故だけが原因ではないだろう。歴史のどこかでこの国は道を踏み間違えてきたからではないか」と考えた。

そして、その核心はあの中国や東南アジアへの侵略戦争の事実、正面から向きあっていたことが大きな原因ではなかろうか、結果このような考えに行きついた。だとすれば、“撫順戦犯管理所で何があったのか”という事実を多くの人に知ってもらうことが今ほど大切なときはない、と。

和田さんは、このように考えて脚本を書こうと決意されました。以来和田さんは中帰連関連の大量の書籍や資料を読みこんで、猛烈な勉強をはじめました。そして土屋

芳雄憲兵の生き方をモデルにすることが最もふさわしいと判断されたのです。劇団の「人のあかし」制作ニュースに書かれている和田さんの文章の一部を、以下紹介します。

「撫順の奇蹟とは何か？ 戦争責任とは何か？ 土屋さんの半生を賭けた問いかけは、3・11大震災後の私たちの生き方に響いてくる」

すでに稽古もいよいよ佳境に入り、熱気も充満してきています。我が受け継ぐ会神奈川支部からも、尾崎隆一氏が特別出演で張りきっています。

京浜協同劇団はすでに50年の歴史を誇る、労働者の街川崎で育まれた市民劇団です。地域にしっかりと根を張って活動しています。毎回、遠くからもおおぜいの観客がかけつけています。



“撫順戦犯管理所で何があったのか”、この真実を社会に大きく広げるのにはこの上ない機会でもあります。皆さんの周囲の多くの友人、知人に観劇を呼びかけていただくことで、支部としても応援していきたいと思えます。

観劇券の入手方法はチラシの裏面から、劇団へ直接申し込んでいただいても結構です。

受け継ぐ会神奈川支部でも取り扱っていますので、連絡いただければお送りします。
<神奈川支部連絡先は表面にあります>

FAX、メール、TEL のいずれかの方法で、<送付先、お名前、TEL、メールアドレス、チケット枚数、チケット種類、観覧希望日（昼、夜別も記入）>をお知らせください。

撫順の奇蹟を受け継ぐ会神奈川支部 松山英司

<京浜協同劇団ホームページより>

人のあかし ～ ある憲兵の記録から ～

<http://www.keihinkyoudougekidan.com/next-stage>

「人のあかし」稽古場から・・・GOJU

<http://www.keihinkyoudougekidan.com/blog/2012/10-15/1-0>

チケット申し込み

<http://www.keihinkyoudougekidan.com/ticket/2012/hitonoakkashi>